Ｖ．おわりに～我が国の予算・財政システムの透明性向上に向けて

我が国では、近年、国のバランスシート（貸借対照表）の作成、財政投融資に関連したコスト分析や政策評価の導入、情報公開法の制定等、透明性向上に向けて努力が続けられているが、我が国の予算・財政システムは、諸外国の最優良慣行と比べると、以下のような課題がある。特に、予算・財政のパフォーマンスを説明する（事後検証）等、より高次の説明責任（アカウンタビリティ）を果たしていくことが重要である[注1]。

①中期的な財政運営のフレームワークの構築

中期的な視野に立って安定的な経済財政運営を行うためには、中期的フレームの中で毎年の予算を編成する仕組みが必要である。こうしたフレームの中で、毎年の予算が財政ルール・目標に適合しているか、新規施策の導入が将来の財政にいかなる影響を与えるか、過去に見積もった歳出等の予測がなぜ乖離したか、財政上のリスクは何か、等を分析することにより、政府の説明責任が向上し、より結果志向の予算編成につながると考えられる。

この点については、本年１月に閣議決定された「改革と展望」により、我が国でも取組みが始まったところである。

②財政政策のスタンスや財政状況を分析する包括的な尺度（ポジション）の構築

当初予算は、マクロ経済の観点からみて、いかなる財政スタンスをとるかという総合的な判断に基づいて編成することが安定的な経済財政運営を行うために必要である。そのためには、予算文書等において、一般政府レベルのバランスや、更には公企業を含めた公的部門のバランスについても分析することが求められる。

③報告書体系の整備

予算・財政システムの透明性を向上させるためには、予算時以外にも予算財政情報の開示を進めていく必要があり、諸外国との比較の観点からは、予算前報告の充実、年央報告及び長期推計報告の作成を進めてい

注1 ＩＭＦが我が国の透明性について評価したＲＯＳＣでも、①と②が今後の課題として強調されている。

くことが求められる。